

大阪鉄道病院 看護部クリニカルラダー(Ver.1)：2022年4月～ (改訂中)

ラダー		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
看護の核となる実践能力	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践できる	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
	ニーズをと	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	<input type="checkbox"/> 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる <input type="checkbox"/> 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	<input type="checkbox"/> 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる <input type="checkbox"/> 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる <input type="checkbox"/> 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる <input type="checkbox"/> 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる <input type="checkbox"/> 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手とケアについて意見交換できる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる <input type="checkbox"/> 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	<input type="checkbox"/> 適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる <input type="checkbox"/> 法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
組織遂行能力	レベル毎の定義	社会人、組織人としての自覚を持ち行動できる。看護チームでは、フォローアールやチームメンバーの役割、簡単な係の役割を遂行できる。	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて基準や手順を遵守した行動がとれる。日々の看護実践においてリーダーシップがとれる。	所属する部署で組織的役割を遂行できる。看護チームではリーダーシップを発揮し、コーディネーターの役割を遂行できる。委員としての役割を各部署で遂行できる。	所属する部署で、専門的な能力を必要とされる役割、かつ指導的な役割を遂行できる。部署の課題に対し、具体的解決を図れる。	所属を越えて、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。看護部門の課題に対し、具体的解決を図れる。
	専門的実践を倫理的・法的	<input type="checkbox"/> 社会人、組織人としての自覚を持ち行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会発行の「看護職の倫理綱領」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「社員等倫理綱領」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「病院及び看護部の理念」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「大阪鉄道病院の職業倫理要綱」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会の看護基準やガイドライン、院内のガイドラインやマニュアルに沿って実践できる	<input type="checkbox"/> 自らの専門的な判断と行動に対する説明義務や責任を持つことができる <input type="checkbox"/> 職場内規律を守って組織人として行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会発行の「看護職の倫理綱領」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「社員等倫理綱領」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「病院及び看護部の理念」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 「大阪鉄道病院の職業倫理要綱」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会の看護基準や院内外のガイドライン、院内マニュアルに沿って実践できる	<input type="checkbox"/> 倫理的課題に気づくことができ、適切な人に相談できる <input type="checkbox"/> 「病院及び看護部の理念」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会の看護基準や院内外のガイドライン、院内マニュアルに沿って実践できる <input type="checkbox"/> 年間パートナー、日々のベア、日々のリーダーとして、メンバーがマニュアルに沿った看護実践が行えているか評価しフィードバックできる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる	<input type="checkbox"/> 多職種に対して看護の視点から意見を述べるができる <input type="checkbox"/> 倫理的課題に対して倫理原則に基づいて状況判断し対応できる <input type="checkbox"/> 「病院及び看護部の理念」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会の看護基準や院内外のガイドライン、院内マニュアルに沿って実践できる <input type="checkbox"/> 所属する部署のメンバーが、マニュアルに沿った看護実践が行えているか評価しフィードバックできる	<input type="checkbox"/> 専門職間で課題が発生した時に多職種を含めた調整的役割を果たすことができる <input type="checkbox"/> 倫理的課題が発生した時に多職種を含めた調整的役割を果たすことができる <input type="checkbox"/> 「病院及び看護部の理念」を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 医療法、保健師助産師看護師法に基づき行動できる <input type="checkbox"/> 日本看護協会の看護基準やガイドライン、院内のガイドラインやマニュアルに沿って実践できる <input type="checkbox"/> マニュアルに沿った看護実践が行えているか評価し、所属を越えて関連部署との調整を図ることができる
	マネジメントする力	<input type="checkbox"/> 指導・助言を受けながら仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理できる <input type="checkbox"/> 自らの役割と能力の限界を十分に理解できる <input type="checkbox"/> 自らの現在の能力や業務範囲を超える専門的な知識が必要な看護ケアを実施する場合は、ベアナスに相談できる <input type="checkbox"/> 医療安全および院内感染防止マニュアルの存在を知っている <input type="checkbox"/> 災害時マニュアル(医療安全マニュアル)の存在を知っている <input type="checkbox"/> 災害時の避難経路が理解できる <input type="checkbox"/> 患者の搬送方法(担送・護送・独歩)が理解できる	<input type="checkbox"/> 仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理できる <input type="checkbox"/> 指導を受けながら、日々のリーダー業務ができる <input type="checkbox"/> 災害時マニュアル内の災害発生時の職員初動マニュアル(勤務中①～③)を理解している <input type="checkbox"/> 感染防止対策マニュアルを見ながら必要な連絡・指示ができる <input type="checkbox"/> マニュアルを見ながら必要な安全対策を実施できる <input type="checkbox"/> ケアを部分的に他者(ヘルパー含む)に依頼する場合は、自らの説明義務や責任を持つことができる	<input type="checkbox"/> 仕事に優先順位を付け、時間を有効に管理するように指導できる <input type="checkbox"/> 日々のリーダーとして、メンバーの能力や業務の進行に応じた病棟内での調整ができる <input type="checkbox"/> 所属部署において委員会活動の役割遂行ができる <input type="checkbox"/> 災害時マニュアル内の災害発生時の職員初動マニュアル(勤務中①～③)を理解し言える <input type="checkbox"/> 患者におよぶ危険を予測し安全対策をメンバーに指導できる <input type="checkbox"/> 看護師および他職種との建設的な協力関係を確立し維持できる <input type="checkbox"/> 他者(ヘルパー含む)に依頼したケアを確認し、必要に応じて指導できる	<input type="checkbox"/> 看護の専門性を発揮し、所属する部署が効率的な看護実践を行えるようヒト・モノ・時間など調整できる <input type="checkbox"/> 所属する部署の看護実践活動の場面でリーダーシップを発揮できる <input type="checkbox"/> 災害時マニュアル内の災害発生時の職員初動マニュアルを理解し言える <input type="checkbox"/> 業務手順、マニュアル、チェックリストなどの改善を提案できる	<input type="checkbox"/> 病院における役割を認識し、組織的に広範囲の役割を遂行する <input type="checkbox"/> 看護活動の場面でリーダーシップ、コーディネーター役割を発揮できる <input type="checkbox"/> 所属する部署で定期的な災害訓練を計画・実施できる <input type="checkbox"/> 不測の事態や状況の変化に効果的に対応できる <input type="checkbox"/> 保健医療の動向を理解し、多様な視点から個人・家族・地域社会をとらえることができる
自己教育・研究能力	レベル毎の定義	自己の課題を指導・助言によって発見し、学習に取り組むことができる。	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる。	自己の学習活動に積極的に取り組み、部署内で後輩・学生の教育指導ができる。	専門職としてキャリアアップを図り、かつ主体的に研究に取り組み、後輩の役割モデルとなることができる。	専門領域や高度な看護技術などについて自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護部門における教育的役割がとれる。
	専門性を開発する力	<input type="checkbox"/> 指導・助言を受けながら、自らの実践を定期的に見直すことができる <input type="checkbox"/> 自らの看護を振り返りまとめることができる <input type="checkbox"/> 職能団体の活動を理解し、自分がその一員であることを意識できる <input type="checkbox"/> 指定された院内外の研修に参加する <input type="checkbox"/> 所属部署に必要な学習に取り組むことができる	<input type="checkbox"/> 自らの基本的な看護の実践を定期的に見直し自己の課題を明確にすることができる <input type="checkbox"/> 生涯学習の必要性を理解し、自己学習できる <input type="checkbox"/> 職能団体に所属し、院内外の講演会や研修に参加できる <input type="checkbox"/> 看護研究の意義・目的が理解できる <input type="checkbox"/> 院内看護研究発表会の抄録を1題以上読むことができる	<input type="checkbox"/> 自らの基本的な看護の実践を定期的に見直し自己の課題を明確にすることができる <input type="checkbox"/> 専門性を高めるための自らの課題に継続的に取り組むことができる <input type="checkbox"/> 職能団体に所属し、積極的に院内外の講演会や研修、かつ学会に参加できる <input type="checkbox"/> 後輩および学生に指導的な役割を実践できる <input type="checkbox"/> 日常の看護の中で疑問や問題意識を持つことができる <input type="checkbox"/> 所属部署の看護研究に、メンバーの一員として参加できる	<input type="checkbox"/> 自身に与えられた役割を理解し行動できる <input type="checkbox"/> 役割モデルとしての自らの実践を定期的に見直すことができる <input type="checkbox"/> 学生およびメンバーに指導的な役割を実践できる <input type="checkbox"/> メンバーに対して効果的なメンター(個人の成長や精神的なサポート)として行動できる <input type="checkbox"/> 職能団体に所属し、積極的に院内外の講演会や研修、学会に参加できる <input type="checkbox"/> 看護研究に取り組み発表できる	<input type="checkbox"/> 全人的、分析的、効率的に実践した看護を自ら定期的に評価することができる <input type="checkbox"/> 多職種の人と共に学ぶ機会を設定し、参加できる <input type="checkbox"/> 学会に参加し専門領域や教育的課題の達成に向けて実践できる <input type="checkbox"/> 職能活動(看護協会の活動)に参加できる <input type="checkbox"/> 看護実践発展への貢献において、また、ケア基準を改善する手段として、組織的活動を実践できる <input type="checkbox"/> 研究活動のリーダーシップをとることができる